



佐藤成子 議員



佐藤勝徳 議員

祝い金、給付金など新たな支援制度の導入は

町長——国の動向や地域のニーズを的確にとらえ施策していく

議員 ある女性の会の集いで「子ども手当でもらったが、以前はいろんな支給制度があったもともとよかった」「復活してもらいたい」「少子化対策にもつながる」などの意見を聞いた。「いきいきファミリー育成制度」について伺う。

町長 結婚祝い品贈呈や長寿祝い制度などを整理・統合し、出生祝い金、入学祝い金などを加え、平成3年度から発足した制度である。

バブル経済崩壊後の国及び地方財政の悪化に伴い、地方行政改革が推進される中、当町も各種事業施策の効果検証に基づき、事業の見直し、統合を行ってきた。

平成12年度に入学祝い金証書を廃止する一方、第3子以降への出生祝い金、産前・産後各6ヶ月間の健康増進支援金の支給を新設した。その後、平成16年の「三位一体改革」の下、地方交付税を含む地方財源が圧縮され

たことを受けた平成17年度から集中改革プランを実施し、更なる行財政改革を推進し「いきいきファミリー育成制度」も再度見直しを行い、出生祝い金、入学祝い金、長寿祝い金を廃止し、現金給付は健康増進支援金のみとした。この給付金についても21年度からの妊婦検診公費負担の拡大と昨年から「子ども手当」の支給に伴い、順次廃止になっている。

議員 「いきいきファミリー育成制度」に代わる新たな支援制度の導入は、

町長 国では「子ども手当」の制度を見直し、平成24年度に改正を行い、「子ども・子育て新システム」を平成25年度から施行を予定している。

社会全体で「子ども・子育てを支える体制づくり」が、明らかとなり「市町村新システム事業計画」を策定する段階で、地域のニーズを的確にとらえ施策を講じていく。

議員 町の交流人口拡大



小正月行事 だんご木まつり（釜淵保育所）

のためのファンづくり対策は。

町長 第5次真室川町総合計画基本構想の基本目標に掲げている

①町の自然、歴史、文化に加え、それを背景とする農林業などの産業からも、交流媒体を広く発掘し、新たな交流メニューの創出。②交流媒体を活用する担い手の育成と交流実践者に対する情報提供や学習機会の確保。

③交流スタイルとメニューを確立し、交流推進体制を整備しながら、姉妹都市交流や東京真室川会等との交流拡大。等を推進していく。

11月開催の「逸品展」については、大幅に趣向を転換しどれもこれも新しい試みとし、約400名の方の参加があった。

今後共、新しい取り組みや新たなファンの獲得に努めていきたい。

圏域が協力し、定住できる地域づくりを！

町長——広域連携で定住できる土台づくりに努力する

議員 近年の少子・高齢化の急速な進展に伴い、町外はもちろん圏域外への人口流出を防ぐために、圏域全体で協力して定住できる地域づくりに取り組む必要があると考える。

町長 今後も最上地域は、大幅な人口減少と急速な少子・高齢化は進むことが予想されることから、地域の人口、財政、経済を考えると近隣市町村との連携協力は不可欠である。

今後も広域連携・定住自立圏の土台を築いていく努力を重ねていく。

農産物に付加価値を

議員 町内にある豊富な天然資源を有効に活用し、農村工場として農産物の加工施設をつくり加工技



子育て支援住宅（舟形町）

術を向上させ、町の活性化を図ってはいかがか。

町長 町内では近年、農産物加工に取り組んでいる方や関心を持っている方が多くなっている。米や山菜など直接販売にも積極的に取り組まれ、

3か所に直売所が運営されている。このような農業者の取り組みをさらに推進・支援したいと考えているが、ノウハウや技術がない、加工や販売に関する人材の不足など課題もある。

議員 ただ作って売ればいい時代ではない、いかに商品化し、直販し、加工に回すかなど、考えて売ることが大切だ、これからは「農業」を「脳業」にしなければ、農家は生き残っていけないと指摘する人もいます。町は適切な助成措

置を講じ指導助言する態勢が必要でないか。

町長 平成20年度より特産品開発支援事業を実施し、これまで7件の事業を支援するとともに、町・地域の魅力をわかりやすく伝えるため真室川ブランド認定事業を行い26品を認定して、各イベントや首都圏において機会あるごとにPRに努め、販路拡大を支援している。今後もこうした事業を継続しながら、新規商品開発や販路開拓、加工のための技術研修や外部専門家との連携などを総合的進め、所得向上と雇用創造を図り、地域経済の活性化につなげていきたい。

議員 町が開設した農産

加工販売施設で、組合員組織「産直まごころ工房」が活動している、この施設に加工場を併設して組合員や希望する農家に加工技術を習得させ、販売を行うのも一つの方法と考えるがどうか。

町長 改修による加工設備の設置を検討したが、作業ごとの区切りなど加工施設としての設置基準からして難しいと判断した。



もち加工場（萩野）